

重点目標
 ○ 冠婚葬祭の合理化推進
 ○ 市民ひと掃き運動の推進

めざして

~~~~~五十九年度定時総会スムーズに終了~~~~~

五月二日、午後一時、会場、文化会館（五F）大会議室、来賓として、九州の会議先から空路帰青、そのまま駆けつけた工藤青森市長を始め、落合市議会議長、東北電力青森営業所長、貴田青森警察署長、出席町会長は二五〇名を超えた。議長には、中奥野町会長長森山健二氏がえらばれ、和やかな雰囲気の中に、一号議案より七号議案まで、一気呵成、スピーディーに進行、可決、承認された。注目された役員改選については、次のとおり決定した。

- 会長 岩谷貞作（留任）
- 副会長 宮城武三（〃）
- 須々田源之助（〃）
- 須藤茂（新任）幸畑団地西町会長
- 能登六男（留任）
- 成田勝美（留任）
- 会計 堀江正二（〃）
- 監事 窪田信介（〃）
- 三浦俊次郎（〃）
- 高橋栄太郎（新任）花園第一町会長

前副会長、川村敏行氏は、久栗坂町会長を辞任したため本会の副会長も自然退任することになり、後任に須藤茂氏が決定したわけである。前監事、木村雄蔵氏も町会長退任しているので、今迄欠員であったが、後任として高橋栄太郎氏が決定。

新副会長の須藤茂氏は戦前営林署へ勤務したことがあったが戦後は東北電力青森営業所へ三十二年間勤められた。本会の建設部員でもあり、前歴からみても、街灯事情にもくわしく、筋をとおす正論の人でもある。

働き盛りの六十二歳。

新役員を含め、町連活動の活性化を願い、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

**清掃二課で映画の貸出し**  
 （連絡先 42-14246）

市の清掃二課で、次の映画を貸出している。

- ・くらしとごみ ~~~~~ごみ処理にみるまちづくり~~~~~ 映写時間三十二分
- ・リサイクル文化都市をめざして ~~~~~ 映写時間二十一分
- ・市制施行八十五周年記念 ~~~~~ゆたかさを求めて~~~~~ 映写時間三十分

町会で希望すれば、いつでも、貸出すことになっている。映写の係り職員もサービスするという。町会で、集会がある場合、事前に連絡して大いに活用してほしいと思う。

なお、同課は、四月から夜間急病センターから梨ノ木清掃センターへ移転した。連絡上、ちょっと不便になったが、本庁内に出先機関が設置されている。

○交通安全パレード（地区）の時期になったが、本年度は、市の外当会からも助成金を追加し、一地区一〇〇〇〇円になりました。実施地区は、当会へご連絡ください。

**冠婚葬祭と、ひと掃き運動愚考**

いずれも言うは易く、行うは難し、というところで時間がかかる仕事である。共通している点は、

- (一) 一人ひとりの心構えでまゐる。
- (二) 個々の生活習慣にかかわる。
- (三) 周辺の目を気にしない勇気が必要。
- (四) シキタリの重圧がある。
- (五) みんながその必要を認めている。

これらの点を踏まえての計画が必要であり、唯一部の者が遠吠えしても効果につながらない。

多くの団体が手を結んで、市民運動的な広がりをもっていき、実施する者に気おくれや、勇気を必要としないような雰囲気づくりが大切である。

少くとも主唱団体の幹部は率先して実施し、それができなかったら辞任する心構えを持つべきである。

自分でやれもしない癖に、他人にすすめることは論外である。今迄も、声を大にして叫んできた本人が、自分の場合は合理化のひとつかけらもみられないことがあった。これでは物笑いの種である。

ひと掃き運動も、毎月十八日といわず、毎日、自分の時間帯をみつめて、自宅周辺を掃くべきである。「十八日」という日はそれに刺激を与え、運動を盛り上げる日と解すべきではないか。月一回の「十八日」を待っているようでは、生活習慣にはならず、長続きはしない。また、計画には、季節による市民にアピールできる目標も必要ではないだろうか。

**墓碑銘**

例えは、  
 春は、雪の残したごみ、泥の排除、桜祭りまでにきれいにしよう。  
 夏は、ねぶた祭りを中心に、三百万の観光客へ美しい街並みを。  
 秋は、秋の大清掃中心に、街路樹の落葉も一掃きで片づけよう。  
 冬は、これまでの習慣をひと投げ運動にもっていきたいものである。前にあった推進母体の発展的解消を機会に、強力な長続きのする運動に盛り上げたいものである。

**墓碑銘**

墓碑銘を書くのは、毎度気がすすまないが、年度明け第一号を書くことになった。

故横山町々会長島谷哲爾殿（七十五歳）  
 四月十八日、死去、五月四日葬儀、故島谷君は、青中二五会（二十五回卒業）で私（筆者）と年令は違うが、同期の桜である。早くから警察界に入り、八戸署退任まで、三十五年勤続後、青森交通安全協会の事務局長を十年近く勤めた。酒は好きだが、糖尿病のため、同期会には、専用のポケットウイスキーびんをもって、チビリチビリやり、目の前のごちそうも余り食えないので、あわれな奴だと思ったこともある。

肝臓もわるく、昨年三カ月入院したときいている。  
 酒のむときは、肉や魚を食えと、よくいわれるが、肝臓を守るためによいからだ。しかし糖尿病ではカロリーを多くとれない。

食餌上、相反する二つの病気がセットになって攻めてこられてはたまらない。少年時代は、旧浜町に住んでいたため、水泳もうまく、長身でスマートだ。事務所へきて、私と駄弁に時を過ごしたものである。今頃君は、西方浄土への道をその長いコンパスで歩いているだろう。そこは警官のいらぬ楽園、ゆっくりり休んでくれ。

河岸の春醒めて  
 舟にも気配あり (K)

